

総評

国語が易しく、理科が特に難しい出題でした。英語はやや難しく、教科によってばらつきがありますが、5教科合計では標準的な難易度の出題でした。

昨年から入試制度と同時に出題方針も変更され、問題文や資料を読み解く力や、文章や式を使って説明する力が問われる問題が多く出題されるようになりました。基本事項を定着させたあとは、他県の過去の入試問題など、実践的な問題を利用して、ポイントを押さえて問題を読むことに慣れ、知識を活用する力を身につけましょう。また、数学や英語の難問に目をうばわれて、理科や社会の復習をおろそかにしないよう気をつけましょう。理科や社会は、1・2年内容の出題の割合が高く、復習が得点に直結しやすい教科です。入試までの時間を効率よく使い、5教科の得点を最大にする方法を考えて下さい。

国語

易しい出題となりました。

今回よくできた人も、このまま油断せず、日々問題演習を重ねて、着実に力を付けることが大切です。

㊦は、問五が難しかったようです。ア・ウを選んでいる人は多かったですが、エ「頭語」が抜けている解答が多くありました。「頭語」には、「挨拶」のほかにも、さまざまな種類があるので、確認しておきましょう。㊧は、問二と問七が難しかったようです。特に、問二のような問題では、文中での使われ方から言葉の意味を考えることも大切ですが、言葉自体の意味を正確に捉えることも大切です。㊨の問二では惜しい解答が多く見られました。「と」の前までが、発言の内容であることをおさえ、最後の三字を書き抜き際には、「と」を書き抜かないように気をつけましょう。㊩はよくできていました。

数学

標準的な難易度の出題でした。

㊱はいずれも基本問題です。㊱の得点が伸びない人は他県の入試問題の㊱を利用するのもよい方法です。

㊲は、四分位数や四分位範囲の求め方、箱ひげ図の表し方を確認しましょう。問3は合計点に着目することがポイントでした。㊳の2乗に比例する関数のグラフは入試で頻出です。式から座標を求めたり、座標から式を求めたりする基本問題に、図形が組み合わされることが多いです。符号の誤りに注意しましょう。㊴の相似の証明はよくできています。問2は△BCHの内角の和が180度で、角H以外の和が90度であることを示せばよいです。㊵の問2、辺と面、面と面の垂直に着目しましょう。入試では時間配分が非常に大切です。最初に全体の分量を把握し、後半の取りこぼしを防ぎましょう。

社会

やや易しめの出題となりました。

地理分野は、基本的な内容に関する出題が多く、おおむねよくできていました。㊶A問3の記述問題もよくできていましたが、指示された内容を書いていない答案も見られましたので、過不足なく書くことを心がけてください。歴史分野では、㊷問5(3)、㊸問6の年代並べかえ問題が難しかったようです。個々の年号を暗記することも大切ですが、政治や戦争に関するできごとはその流れをおさえるようにしましょう。

公民分野は、基本的な内容に関する出題が多く、おおむねよくできていました。

各分野とも基本的な語句は書けていましたが、「福祉」「権」「裁」などの漢字を誤って書いた答案が目立ちましたので、間違えた人はよく確認しておきましょう。

理科

難しい出題となりました。

㊱は、どれも基本的な内容に関する出題でした。間違えたところだけではなく、迷った問題もしっかりと復習し、次は確実に得点できるようにしましょう。㊲は、植物の分類に関する出題でした。比較的オーソドックスな問いだったこともあり、一部の問題を除きよくできていました。㊳は、問1(3)で「→」を「=」とした答案が目立ちました。問2ができなかった人は、中和反応では、どのような反応が起こり、それぞれの数がどのように変化するか、または一定のままになるのかなどを復習しましょう。㊴は、全体に難しくなりました。それぞれの実験結果から、一つ一つ順を追って考えられたかがポイントでした。㊵問3(1)は、計算を何度も行う必要があり、難しかったようです。

英語

やや難しい出題となりました。

全体的に記述問題で得点率が低くなりました。特に、冠詞や単語、時制などでのミスが目立ちました。類似問題などで練習をして、次のテストでは確実に得点できるようにしましょう。

㊱の問1と問2は、英文が一度しか放送されないリスニング問題でした。イラストや本文に先に目を通しておき、「だれが」「何をする/何をしているか」という情報を集中して聞き取るようにしましょう。

㊲の長文問題では英問英答、適語補充の問題で得点率が低くなりました。長文の内容を理解することが難しかった人は、解答解説の和訳を活用して内容を確認しましょう。苦手としている語句や文法をひとつひとつ覚えることが得点力の向上につながります。